

NETGEAR®

ReadyNAS Replicate

ユーザーマニュアル

2013 年 8 月
202-11075-02



テクニカルサポート

NETGEAR 製品をお選びいただきありがとうございます。

NETGEAR 製品のインストール、設定、または仕様に関するご質問や問題については、下記の NETGEAR カスタマーサポートまでご連絡ください。無償保証を受けるためには、本製品をご購入後 30 日以内にユーザー登録が必要になります。ユーザー登録方法につきましては、別紙「ユーザー登録のお知らせ（ユーザー登録のお願い）」をご確認ください。

NETGEAR カスタマーサポート

電話：フリーコール 0120-921-080（携帯・PHS など、フリーコールが使用できない場合：03-6670-3465）

受付時間：平日 9:00～20:00、土日祝 10:00～18:00（年中無休）

E-mail：support@netgear.jp

テクニカルサポートの最新情報は、NETGEAR の Web サイトをご参照ください。

<http://www.netgear.jp/support/>

商標

NETGEAR、NETGEAR ロゴは米国およびその他の国における NETGEAR, Inc. の商標または登録商標です。記載内容は、予告なしに変更されることがございます。© NETGEAR, Inc. All rights reserved.

目次

第1章 はじめに

ReadyNAS Replicate の概要	5
ReadyNAS Replicate のセットアップ	6
ライセンス	6
ReadyNAS Remote アカウント	6
ReadyNAS OS 6 で ReadyNAS Replicate を有効にする	7
RAIDiator 5.3 で ReadyNAS Replicate をインストールする	9
RAIDiator 4.2 で ReadyNAS Replicate を有効にする	13

第2章 データの複製と復元

ReadyNAS Replicate 管理画面へのアクセス	21
バックアップと複製	22
フルバックアップおよび差分バックアップ	22
スナップショット	22
データのバックアップ	23
システムの複製	25
復元	29
データの復元	29
システムの復元	30

第3章 複製ジョブの管理

ネットワークのモニタリング	32
ジョブの表示と管理	33
ジョブのモニタリング	34
ジョブレポートの表示	35

はじめに

1

ReadyNAS Replicate では、2 台以上の ReadyNAS 間でオンデマンドの仮想プライベート接続を作成できます。従来の VPN アプリケーションとは異なり、接続の確立方法は簡単です。お使いの ReadyNAS を ReadyNAS Remote の仮想ネットワークに追加して、ReadyNAS Replicate に登録するだけです。接続が確立したら、追加した ReadyNAS はまるで同じ LAN 上にあるかのように動作します。

この章では次の内容について説明します。

- *ReadyNAS Replicate の概要*
- *ReadyNAS Replicate のセットアップ*

このマニュアルに記載された内容に関する詳しい情報は、NETGEAR のサポートウェブサイト (<http://www.netgear.jp/supportInfo/>) をご覧ください。

新機能やバグ修正のためのファームウェアアップデートは、適宜 <http://www.netgear.jp/supportInfo/> からダウンロードできます。NETGEAR は常に最新のファームウェアをご利用になることを推奨します。ファームウェアのバージョンによっては、お使いの製品の機能や動作がこのマニュアルに記載されている内容と異なる場合がございます。

ReadyNAS Replicate の概要

ReadyNAS Replicate を使えば、1 台の ReadyNAS から別の ReadyNAS へデータを複製できます。ReadyNAS Replicate は、基盤となる通信テクノロジーとして ReadyNAS Remote を使用します。ReadyNAS Remote をインストールすれば、デバイスが互いにインターネットを介してリモートアクセスできるようになります（ReadyNAS Remote について詳しくは、お使いの ReadyNAS のユーザーマニュアルまたは『ReadyNAS Remote User Manual (ReadyNAS Remote ユーザーマニュアル)』をご覧ください）。

ReadyNAS Replicate では、1 台の ReadyNAS から別の ReadyNAS にデータを複製したり、別の ReadyNAS からデータを復元できます。ウェブベースの ReadyNAS Replicate 管理画面を使って、複数の場所にある ReadyNAS 間のバックアップおよび復元タスクを作成、管理、監視できます。

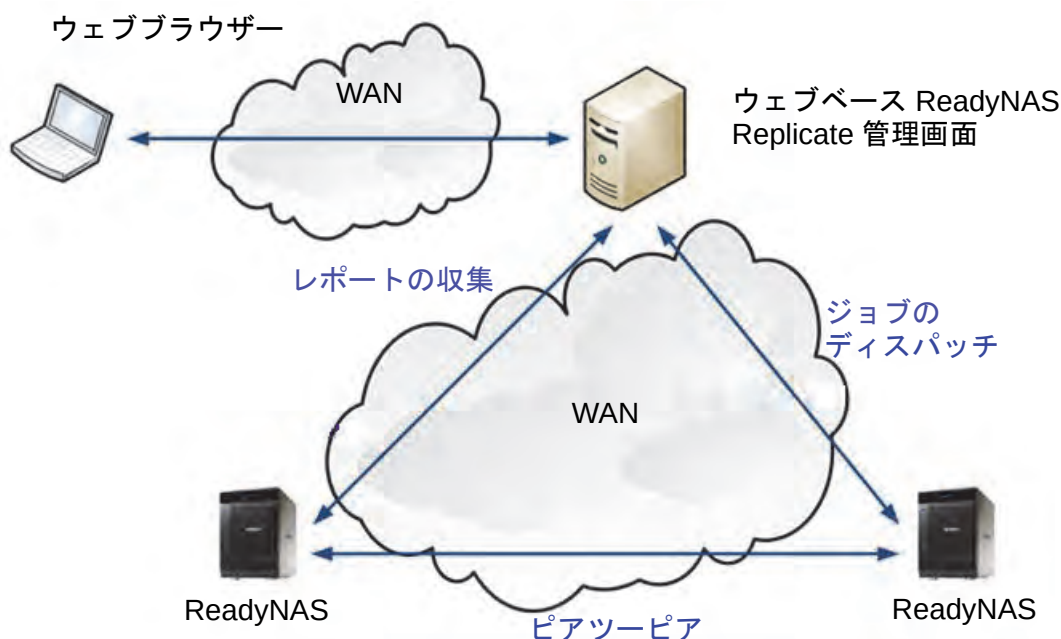


図 1. ReadyNAS Replicate を使ったジョブの作成および管理

複製および復元タスクは ReadyNAS 間で実行されますが、これらのプロセスは ReadyNAS Replicate 管理画面を使って設定できます。

ReadyNAS Replicate 管理画面を使えば、どこからでも ReadyNAS のデータを制御できます。

ReadyNAS Replicate 管理画面はクラウドで動作し、複製または復元ジョブを実行する ReadyNAS にタスクをディスパッチします。この管理画面を使ってジョブのスケジュール設定や、データの即時保存および復元、ジョブの取り消しおよび再開、レポートの表示を行うことができます。

ReadyNAS Replicate のセットアップ

ReadyNAS Replicate は次のオペレーティングシステムで動作する ReadyNAS と互換性があります。

- ReadyNAS OS 6
- RAIDiator 5.3
- RAIDiator 4.2

ReadyNAS Replicate を使用するには、次の条件が必要となります。

- ネットワーク上に 2 台以上の ReadyNAS
- ReadyNAS Remote ソフトウェア
- ReadyNAS Remote アカウント
- 有効な ReadyNAS Replicate のライセンスキー（RAIDiator 4.2 のみ）

ライセンス

ReadyNAS Replicate は ReadyNAS OS 6 および RAIDiator 5.3 では無料で使用できます。お使いの ReadyNAS が ReadyNAS OS 6 または RAIDiator 5.3 の最新バージョンの場合、ReadyNAS Replicate のライセンスは不要です。

RAIDiator 4.2 をお使いの場合、ReadyNAS Replicate のライセンスが必要です。ライセンスキーをお持ちでない場合、45 日間の無料体験版をご使用いただけます。45 日間の無料体験期間終了後にライセンスキーをお持ちでない場合は、ReadyNAS Replicate にアクセスできなくなります。

ReadyNAS Remote アカウント

ReadyNAS Replicate を使用するには、ReadyNAS Remote アカウントが必要です。

コンピューターに ReadyNAS Remote クライアントをインストールすると ReadyNAS Remote アカウントを作成できます。ストレージシステムに ReadyNAS Remote をインストールするか有効にする場合も ReadyNAS Remote アカウントを作成できます。

ReadyNAS Remote について詳しくは、お使いの ReadyNAS のユーザーマニュアルまたは『ReadyNAS Remote User Manual (ReadyNAS Remote ユーザーマニュアル)』をご覧ください。

ReadyNAS OS 6 で ReadyNAS Replicate を有効にする

ReadyNAS OS 6 には ReadyNAS Replicate がプレインストールされています。この機能を使用するには、ReadyNAS 上で有効にし、お使いの ReadyNAS を ReadyNAS Replicate に登録します。

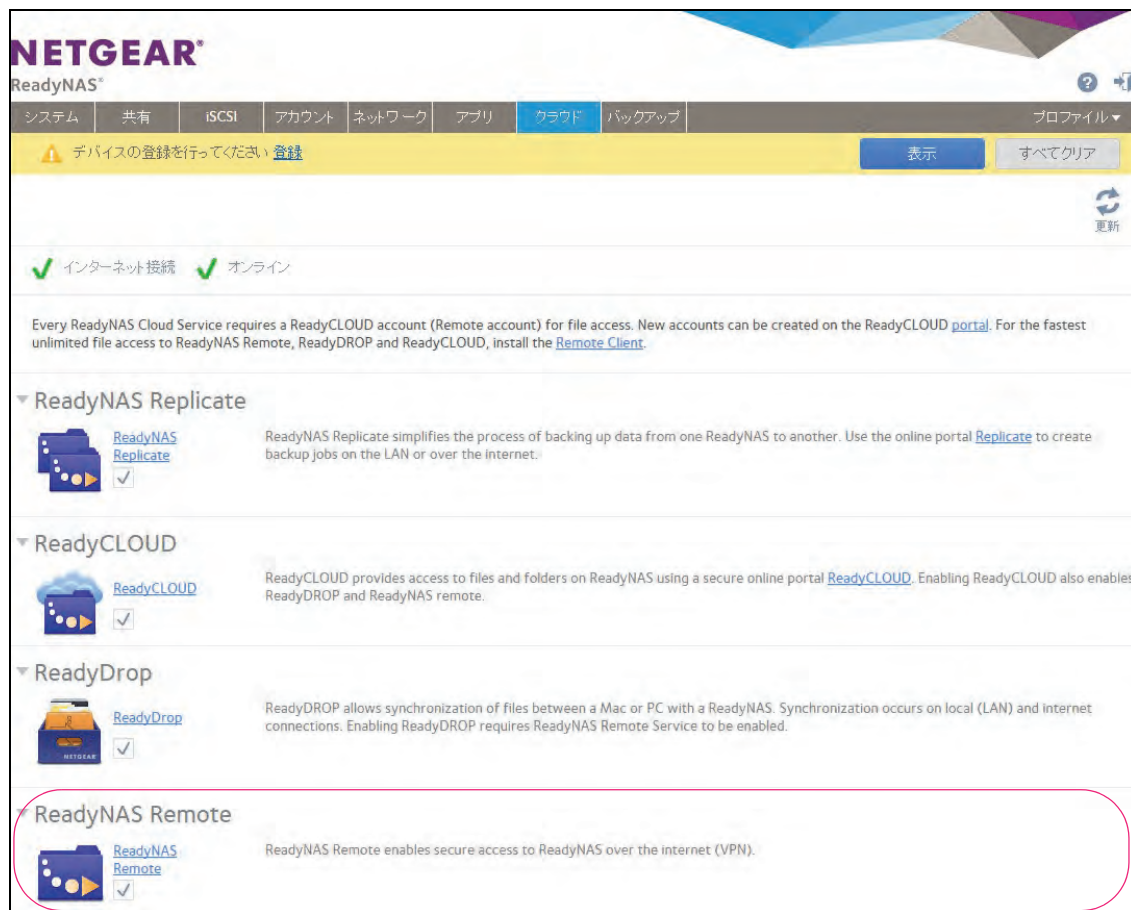
➤ **ReadyNAS Replicate を有効にする：**

1. ReadyNAS OS 6 のローカル管理画面で、**クラウド**を選択します。

クラウドサービスとクラウドユーザーのリストが表示されます。

2. ReadyNAS Remote が有効になっていることを確認します。

ReadyNAS Remote の隣のチェックボックスにチェックを入れると、ReadyNAS Remote が有効になります。



ReadyNAS Remote について詳しくは、お使いの ReadyNAS のユーザーマニュアルまたは『ReadyNAS Remote User Manual (ReadyNAS Remote ユーザーマニュアル)』をご覧ください。

3. ReadyNAS Replicate を有効にしてお使いの ReadyNAS を登録します。
 - a. ReadyNAS Replicate のチェックボックスを選択します。

ポップアップが表示されます。



ReadyNAS Replicate

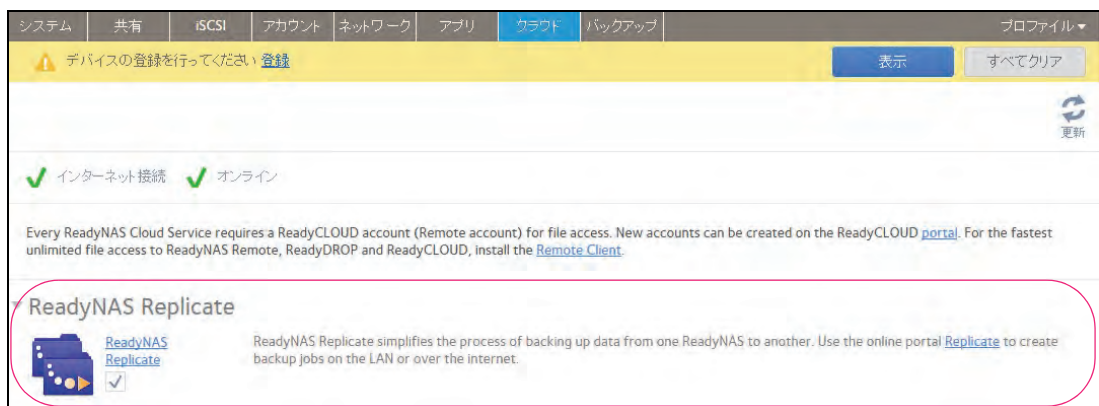
名前:

パスワード:

[Create Account](#) | [Forgot Account](#) | [Terms of Use](#) | [Privacy Policy](#)

- b. ReadyNAS Remote のログイン情報を入力し、登録ボタンをクリックします。

お使いの ReadyNAS が ReadyNAS Replicate に登録され、ReadyNAS Replicate 機能が有効になります。



4. ReadyNAS Replicate を使用したい各 ReadyNAS OS6 でこの手順を繰り返します。

これで ReadyNAS Replicate ウェブ管理画面を使用して ReadyNAS 間でデータの複製や復元ができるようになります。詳しくは、[第 2 章 データの複製と復元](#)をご覧ください。

RAIDiator 5.3 で ReadyNAS Replicate をインストールする

RAIDiator 5.3 で ReadyNAS Replicate を使用するには、ReadyNAS Replicate アプリをインストールしてお使いの ReadyNAS を ReadyNAS Replicate に登録します。

➤ **ReadyNAS Replicate をインストールする：**

1. RAIDiator 5.3 の管理画面（ダッシュボード）にログインします。
2. ReadyNAS Remote が有効になっていることを確認します。

ダッシュボードから**設定 > システム > 設定 > リモートアクセス**を選択して ReadyNAS Remote 設定画面を表示します。

ON/OFF スライダーを ON の位置にして ReadyNAS Remote を有効にします。

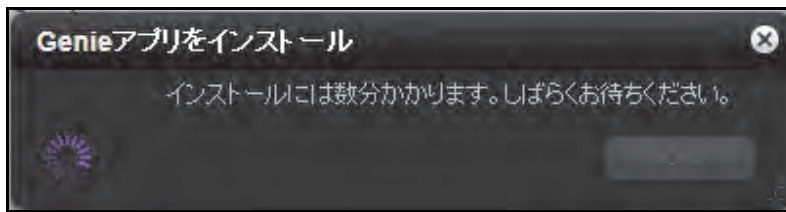


ReadyNAS Remote について詳しくは、お使いの ReadyNAS のユーザーマニュアルまたは『ReadyNAS Remote User Manual (ReadyNAS Remote ユーザーマニュアル)』をご覧ください。

3. ダッシュボードで、**genie アプリ**を選択します。
4. genie アプリサービスを有効にするよう確認するメッセージが表示された場合は有効にし、genie+ Marketplace アカウントでログインします。利用可能なアプリの一覧が表示されます。
5. ReadyNAS Replicate アプリまでスクロールして**購入**ボタンをクリックします。



アプリのインストールを示すメッセージが表示されます。



新しいウィンドウで genie+ Marketplace が表示され、購入を確認する画面が表示されます。

Purchase Summary	
Purchase Item	Amount
ReadyNAS Replicate	\$0.00
Taxes	\$0.00
Total	\$0.00

No payment information is required for free applications.

[Payment Policy](#)

Confirm Purchase **Cancel**

注意： ポップアップブロックが有効になっている場合、ダッシュボードで新しいウィンドウを開くとブロックされる場合があります。ポップアップを許可していることを確認してください。

6. Confirm Purchase（購入の確認）ボタンをクリックして購入を確認します。

注意： ReadyNAS Replicate アプリは RAIDiator 5.3 の最新バージョンでは無料でお使いいただけます。

genie+ Marketplace アカウントのアドレスに確認のメールが送られます。数分後に、無料の ReadyNAS Replicate アプリが ReadyNAS にインストールされます。

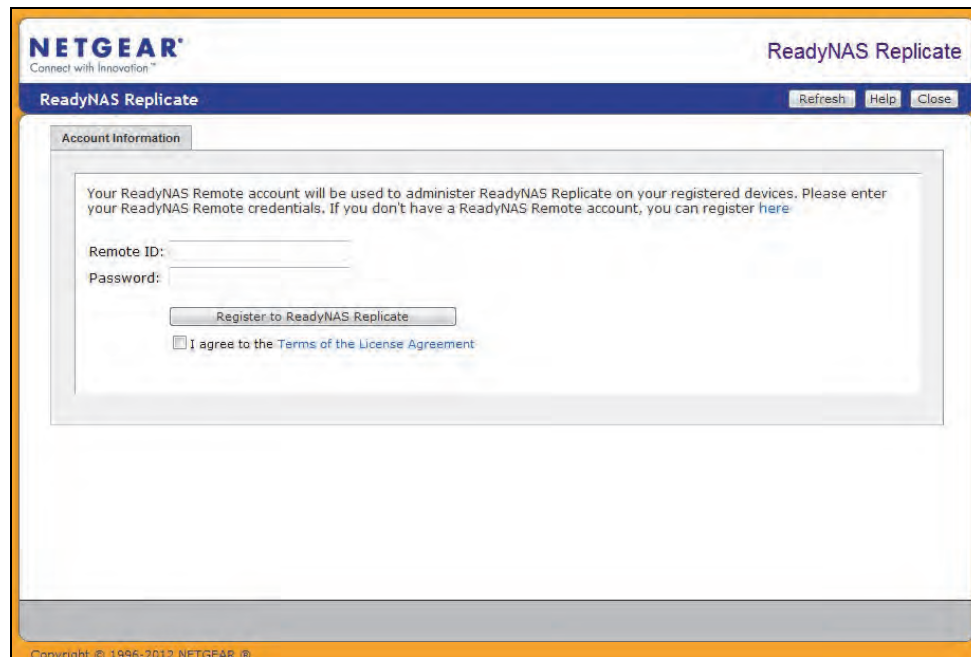
7. ReadyNAS Replicate にお使いの ReadyNAS を登録します。

- a. ダッシュボードで **genie アプリ > インストール済み** を選択します。

- b. ReadyNAS Replicate までスクロールダウンし、**Manage ReadyNAS Replicate (ReadyNAS Replicate の管理)** ボタンをクリックします。



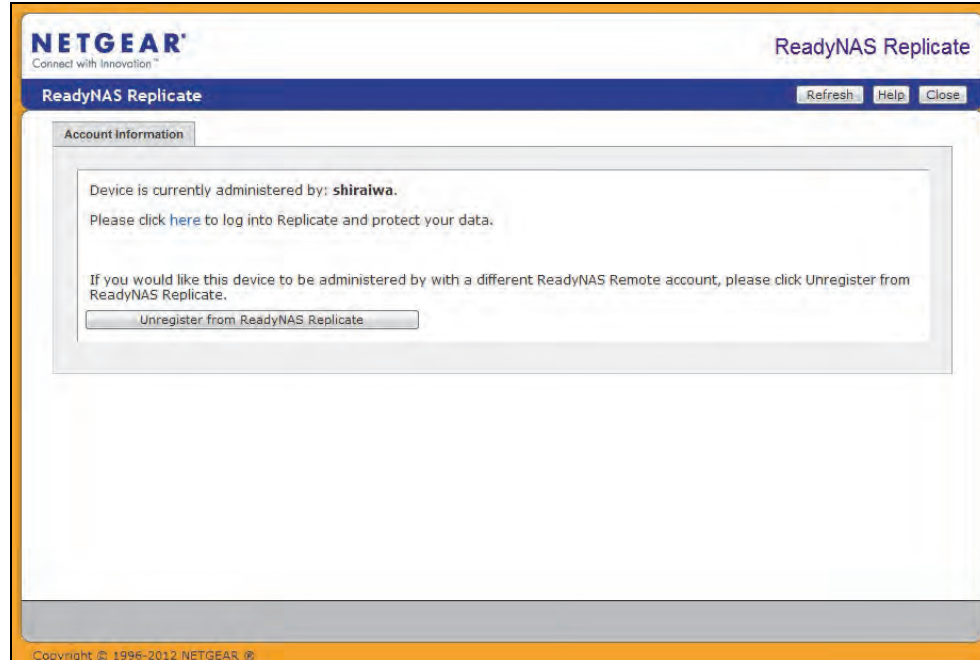
新しいウィンドウで ReadyNAS Replicate の登録ページが表示されます。



注意： ポップアップブロックが有効になっている場合、ダッシュボードで新しいウィンドウを開くとブロックされる場合があります。ポップアップを許可していることを確認してください。

- c. ReadyNAS Remote のログイン情報を入力し、**Register to ReadyNAS Replicate (ReadyNAS Replicate に登録)** ボタンをクリックします。

お使いの ReadyNAS は ReadyNAS Replicate に登録されました。



8. ReadyNAS Replicate を使用する各 ReadyNAS でこの手順を行います。

これで ReadyNAS Replicate 管理画面を使用して ReadyNAS 間でデータの複製や復元ができるようになります。詳しくは [第 2 章 データの複製と復元](#) をご覧ください。

RAIDiator 4.2 で ReadyNAS Replicate を有効にする

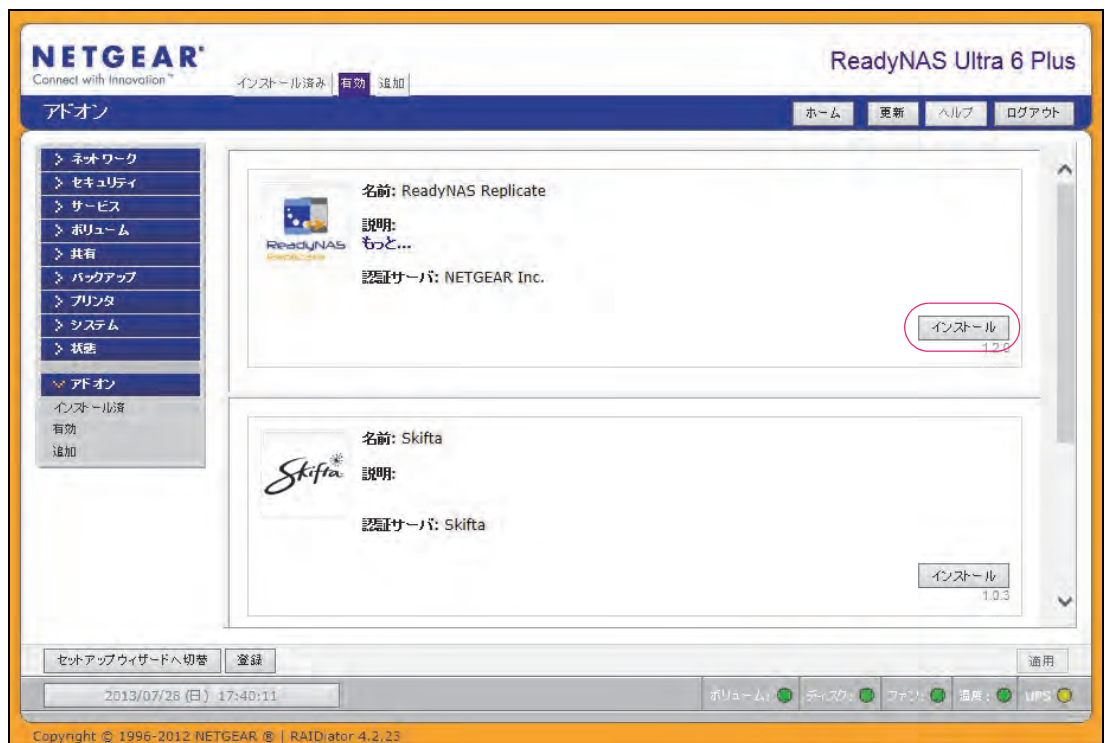
RAIDiator 4.2 で ReadyNAS Replicate を使用するには、ReadyNAS Replicate アドオンをインストールし、お使いのシステムを ReadyNAS Replicate に登録します。

➤ ReadyNAS Replicate のインストール：

1. FrontView 管理画面にログインします。
2. お使いの ReadyNAS に ReadyNAS Remote アドオンがインストールされていることを確認します。

ReadyNAS Remote について詳しくは、お使いの ReadyNAS のユーザーマニュアルまたは『*ReadyNAS Remote User Manual (ReadyNAS Remote ユーザーマニュアル)*』をご覧ください。

3. ReadyNAS Replicate アドオンをインストールします。
 - a. アドオン > 有効を選択します。
 - b. ReadyNAS Replicate の欄までスクロールダウンし、**Install**（インストール）ボタンをクリックします。



進捗バーが表示され、ダウンロード手順を示します。

ダウンロードが完了すると、ポップアップが表示されます。

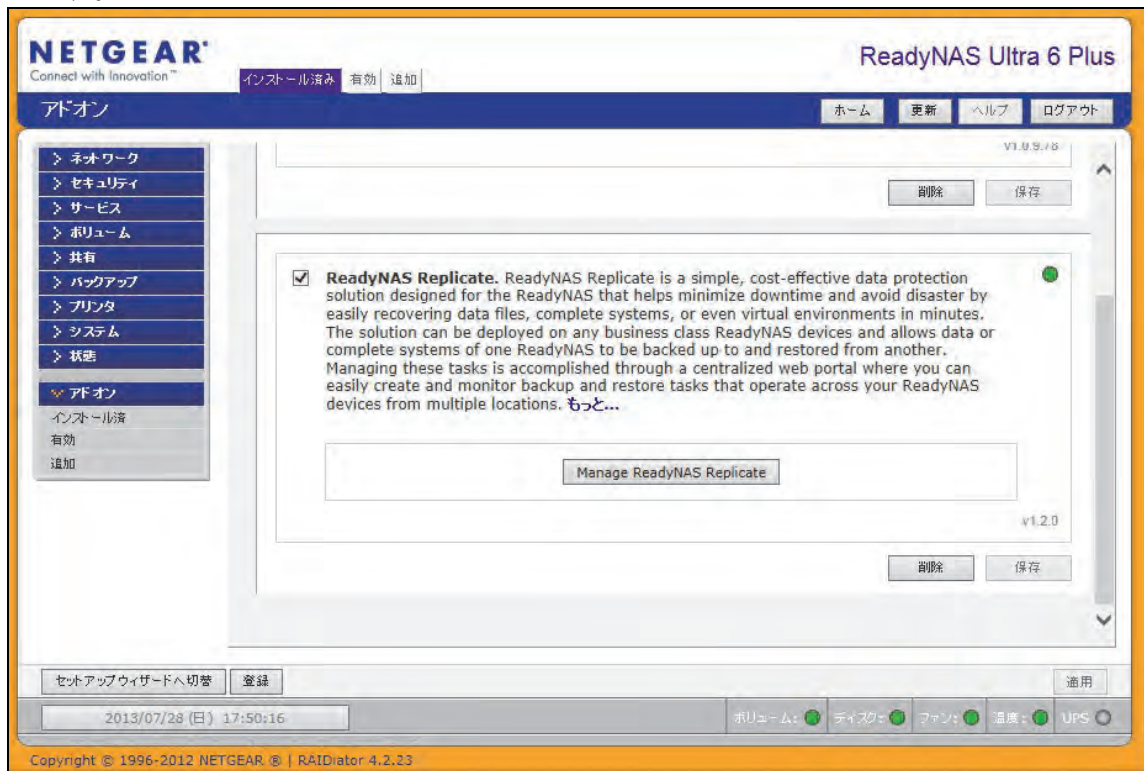
- c. **OK** ボタンをクリックします。

ReadyNAS Replicate アドオンがインストールされました。

ReadyNAS Replicate をインストールした後に、お使いの ReadyNAS を ReadyNAS Replicate に登録する必要があります。

➤ **お使いの ReadyNAS を ReadyNAS Replicate に登録する：**

1. FrontView にログインし、ReadyNAS の管理画面を表示します。
2. **アドオン > インストール済み**を選択し、ReadyNAS Replicate の欄までスクロールダウンします。



- **Manage ReadyNAS Replicate (ReadyNAS Replicate の管理)** ボタンがアクティブになっている場合、ReadyNAS Replicate は使用の準備ができています。
- **Manage ReadyNAS Replicate (ReadyNAS Replicate の管理)** ボタンがアクティブになっていない場合、ReadyNAS Replicate チェックボックスを選択して**保存**をクリックします。

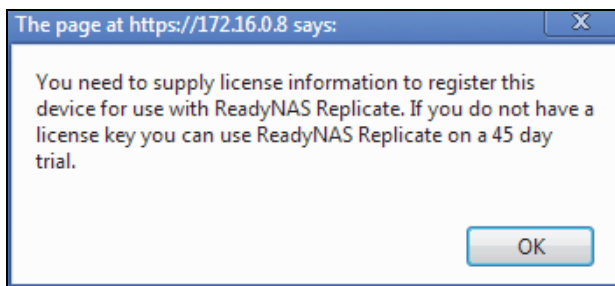
Manage ReadyNAS Replicate (ReadyNAS Replicate の管理) ボタンが有効になり、ReadyNAS Replicate を使用する準備ができます。

3. **Manage ReadyNAS Replicate (ReadyNAS Replicate の管理)** ボタンをクリックします。

ReadyNAS Replicate 登録画面が新しいウィンドウで表示されます。

注意： ポップアップブロックが有効になっている場合、Front View で新しいウィンドウを開くとブロックされる場合があります。ポップアップを許可していることを確認してください。

登録するには ReadyNAS Replicate ライセンスを購入するか 45 日間の体験版を使用するようメッセージが表示されます。



4. 必要に応じて、HTTP プロキシ設定をします。

注意： お使いの ReadyNAS が HTTP プロキシサーバーに接続されている場合、プロキシの設定を入力するまで、ライセンスおよびユーザー登録プロセスに進むことはできません。次の手順を実行します。

- a. **Advanced Settings**（詳細設定）ボタンをクリックします。

[Configuration (設定)] タブが [Device Registration (デバイス登録)] タブの隣に表示されます。

- b. **Configuration (設定)** タブをクリックします。

The screenshot shows the 'ReadyNAS Replicate' web interface. At the top, there's a header with the 'NETGEAR' logo and 'ReadyNAS Replicate' text. Below the header, there are tabs for 'Account information', 'Device Registration', and 'Configuration'. The 'Configuration' tab is active. Inside the configuration area, there's a 'Device ID' field with the value 'pro1_001F33EA1CA7'. A red box highlights the 'Use Proxy Server' section, which contains a 'Type' dropdown set to 'HTTPS', and 'Address' and 'Port' input fields. Below these are checkboxes for 'Authentication Required', 'User Name', and 'Password'. To the right of the proxy section, there's a 'Specify Port for Incoming Connections' section with a 'Protocol' dropdown set to 'TCP' and a 'Port' input field set to '5300'. Below that are 'Security' options: 'Enable Encryption' and 'Enable Firewall'. At the bottom right, there's a 'Debug' section with a 'Level Type' dropdown set to 'Debug Mesg Info'. At the bottom center, there's an 'Apply Settings' button. At the bottom left, there's an 'Advanced Settings' button. The bottom right corner shows 'p2p version 1.8.0-0'.

- c. フィールドに HTTP プロキシ設定の情報を入力します。

- d. **Apply Settings (設定の適用)** をクリックします。

設定が保存されます。

5. [Device Registration (デバイスの登録)] タブをクリックします。
6. デバイス登録画面でライセンスキーを入力します。
7. **I accept the Terms of the License Agreement (ライセンス契約に同意します)** チェックボックスを選択します。

8. Update License ボタンをクリックします。

ReadyNAS Replicate

Account information Device Registration

License Information

License Key: Click [here](#) to purchase a license.

Type: Trial

Valid from: Fri, 24 Sep 2010 20:35:31 UTC

Expiration: Mon, 8 Nov 2010 20:35:31 UTC

Customer Information

Company Name*:

First Name*:

Last Name*:

Email Address*:

Phone Number:

VAR Information

☐ I accept agreement [The licence agreement and terms](#)

p2p version 1.8.0-0

有効なライセンスキーを入力すると、アカウント情報が自動的に設定されます。このアカウントは、ストレージシステム上のアプリケーションを管理するのに使用されます。

注意： ライセンスを購入すると、ライセンスキーがメールで送られてきます。

体験版を使用する場合は、**45 day trial（45 日間無料体験版）** ボタンをクリックします。

ReadyNAS Replicate

Account Information Device Registration

License Information

License Key: Click [here](#) to purchase a license.

Customer Information

Company Name*:

First Name*:

Last Name*:

Email Address*:

Phone Number:

Reseller Information

☐ I agree to the [Terms of the License Agreement](#)

45 日間無料体験版を開始するには、ここをクリックします。

体験版は45日間無料でReadyNAS Replicateを使用することができます。

ReadyNAS Remote アカウント情報を入力するようメッセージが表示されます。

ReadyNAS Replicate 登録ページが新しいウィンドウで表示されます。

NETGEAR
Connect with Innovation™

ReadyNAS Replicate

Refresh Help Close

Account Information

Your ReadyNAS Remote account will be used to administer ReadyNAS Replicate on your registered devices. Please enter your ReadyNAS Remote credentials. If you don't have a ReadyNAS Remote account, you can register [here](#)

Remote ID:

Password:

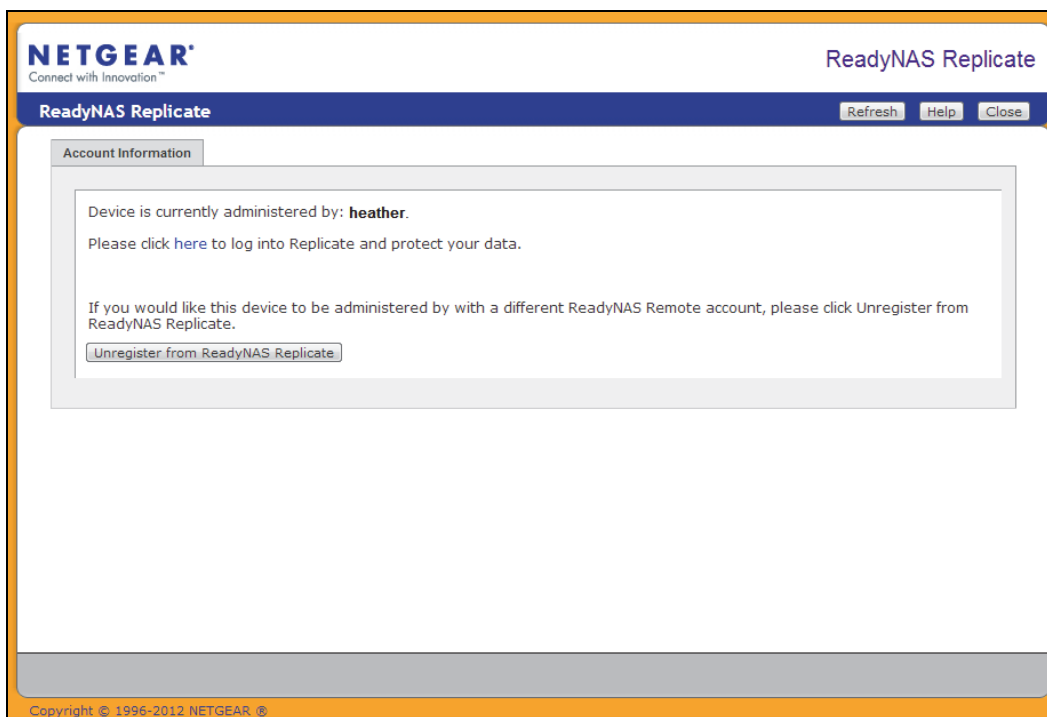
☐ I agree to the [Terms of the License Agreement](#)

Copyright © 1996-2012 NETGEAR ®

注意： ポップアップブロックが有効になっている場合、FrontView で新しいウィンドウを開くとブロックされる場合があります。ポップアップを許可していることを確認してください。

9. ReadyNAS Remote のログイン認証を入力し、**Register to ReadyNAS Replicate (ReadyNAS Replicate に登録)** ボタンをクリックします。

お使いの ReadyNAS が ReadyNAS Replicate に登録されました。



10. ReadyNAS Replicate を使用したい各 ReadyNAS 4.2 システムでこの手順を繰り返します。

これで ReadyNAS Replicate ウェブ管理画面を使って ReadyNAS 間でデータを複製したり復元できるようになります。詳しくは、[第 2 章 データの複製と復元](#)をご覧ください。

2 データの複製と復元

2

この章では次の内容について説明します。

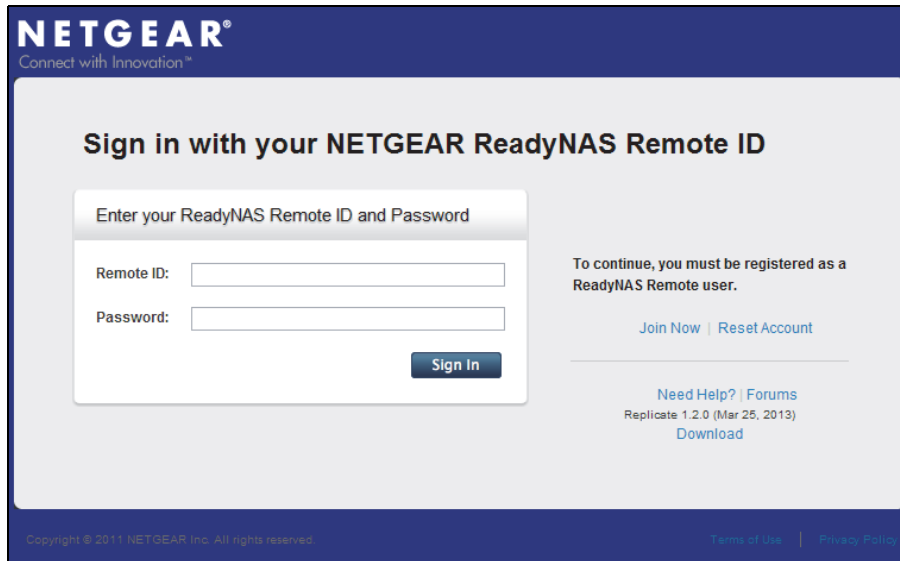
- ReadyNAS Replicate 管理画面へのアクセス
- バックアップと複製
- 復元

ReadyNAS Replicate 管理画面へのアクセス

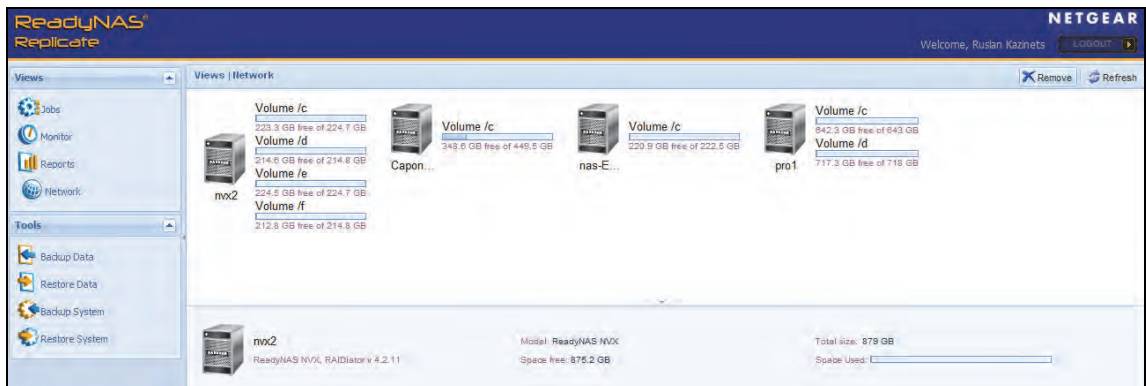
ReadyNAS Replicate の管理画面はウェブベースのインターフェイスで、すべての複製および復元ジョブを集中管理できます。

➤ ReadyNAS Replicate にログインする：

1. ReadyNAS Replicate の管理画面 www.replicate.readynas.com へアクセスします。



2. ReadyNAS Remote アカウントを使用して ReadyNAS Replicate にログインします。
ReadyNAS Replicate のホーム画面が表示されます。



ここから、ネットワーク上で登録されている ReadyNAS を参照できます。

バックアップと複製

ReadyNAS Replicate を使うと、1 台の ReadyNAS から別の ReadyNAS へデータを簡単に複製することができます。

フルバックアップおよび差分バックアップ

初めてバックアップ（または複製）を実行する場合、ReadyNAS Replicate は常にフルバックアップを行います。フルバックアップはソース側の ReadyNAS に保存されたすべての選択されたデータのコピーを作成します。フルバックアップにかかる時間はバックアップするデータの量により異なります。

次回からは、ReadyNAS Replicate は差分バックアップを行います。差分バックアップは前回のバックアッププロセスから変更されたデータのみをコピーします。差分バックアップジョブにかかる時間はフルアップジョブよりもかなり少なくなります。

大量のデータをソース側の ReadyNAS から複製する場合、複製ジョブをいくつかに分割し、時間差をつけてスケジューリングすることを推奨します。最初のバックアップジョブを実行してからいくつかの差分バックアップジョブを同一 LAN 上で行い、差分バックアップジョブがどれくらいの大きさになるかを確認します。

スナップショット

スナップショットは、バックアップ（または復元）ジョブが行われるときに複製先の ReadyNAS にコピーされるデータが矛盾しないことを保証します。

ジョブのスナップショットを有効にすると、ジョブ実行時にソースデータのスナップショットが保存されます。スナップショットはソースシステムに保存され、ジョブが完了すると削除されます。

スナップショットを使用しない場合、バックアップジョブが行われるときに使用中のデータは複製先の ReadyNAS にコピーされません。このとき、ジョブは失敗したように見えますが、ログを確認すると、使用中のファイルだけが複製されなかったことが分かります。通常はほとんどのファイルがコピーされ、またコピーされなかったデータは次のジョブ実行時にコピーされます。

注意： RAIDiator 5.3 はスナップショットに対応していません。

ReadyNAS OS 6 をお使いの場合、バックアップジョブのスナップショット用に容量を割り当てる必要はありません。

RAIDiator 4.2 では、各ボリュームにスナップショットの予約容量として決められた容量を予約します。ボリューム上のスナップショットはスナップショット予約容量を使用します。RAIDiator 4.2 を使用している場合は、どれくらいの容量をバックアップのスナップショットジョブに割り当てるかを決める必要があります。デフォルトのスナップショット予約は 10GB です。NETGEAR は最大 5% のストレージ容量を割り当てることを推奨します。

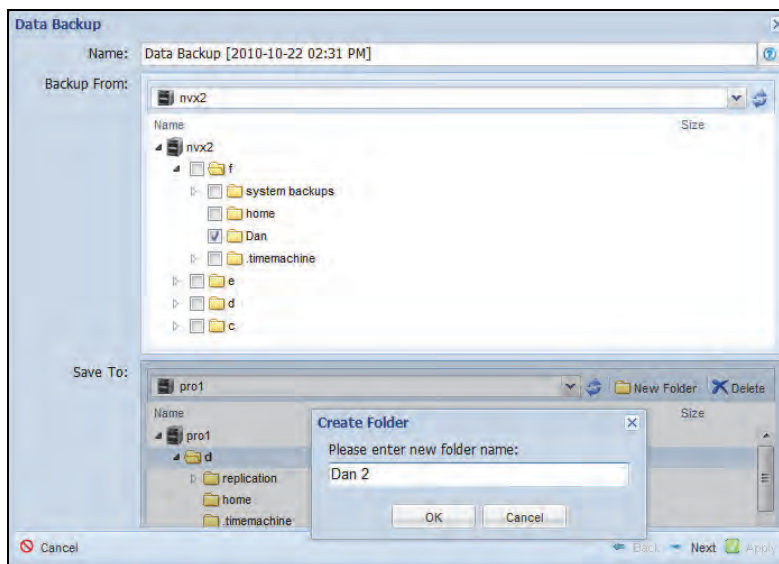
ReadyNAS に書き込みが進行中の新しいファイルはスナップショットの予約に影響しませんが、変更または削除されたファイルはこの領域に影響を及ぼします。特に論理ユニット番号 (LUN) は、新しいファイルを含め LUN に書き込まれるデータがスナップショット予約領域を使用するため、この領域を使い果たします。

データのバックアップ

ReadyNAS Replicate を使って個々のフォルダーを 1 台の ReadyNAS から別の ReadyNAS にバックアップまたは復元できます。

➤ **フォルダーデータをバックアップまたは複製する：**

1. **Tools (ツール) > Backup Data (データのバックアップ)** を選択します。

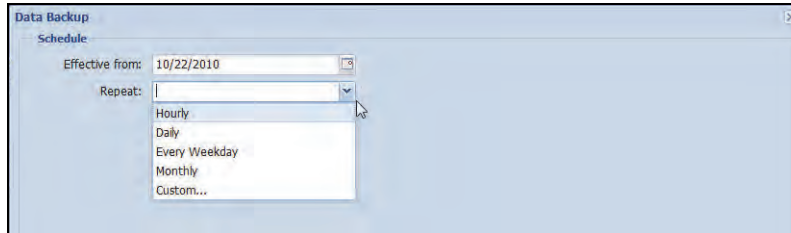


2. **Name (名前)** 欄にジョブの名前を入力します。
3. **Backup From (バックアップ元)** ドロップダウンリストで、バックアップしたい ReadyNAS とフォルダーの名前を選択します。
4. **Save To (バックアップ先)** ドロップダウンリストから、データの複製先を選択します。

ヒント： **New Folder (新規フォルダー)** ボタンをクリックしてソースまたはコピー先の ReadyNAS にフォルダーを作成できます。

5. **Next (次へ)** ボタンをクリックします。

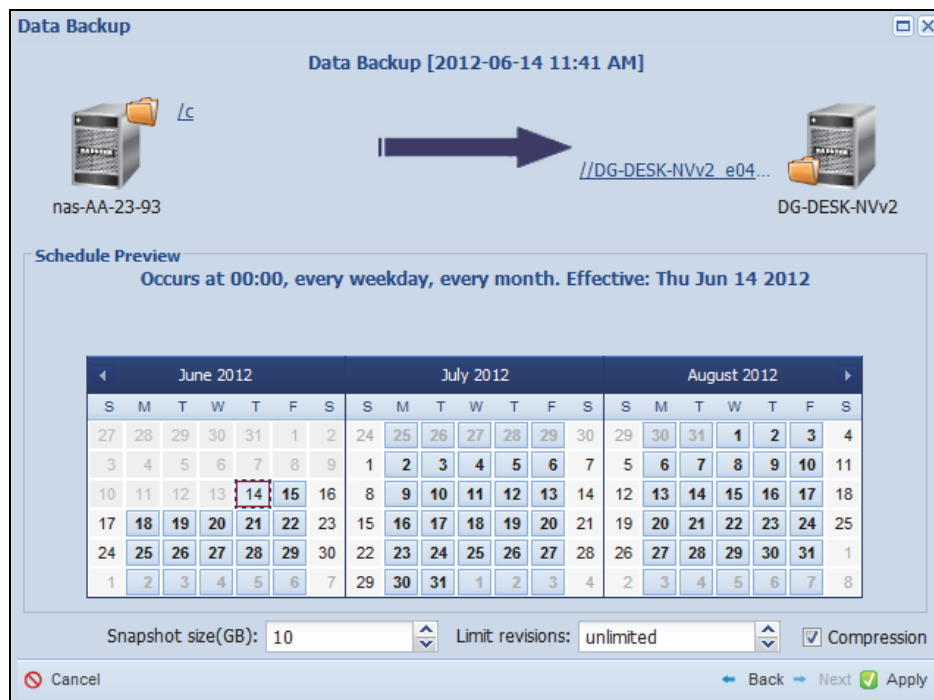
6. ジョブのスケジュールを設定します。



- a. Effective from（開始日）欄で、ジョブを開始したい日付を設定します。
- b. Repeat（繰り返し）ドロップダウンリストで、次のいずれかを選択します。
 - Hourly（毎時）
 - Daily（毎日）
 - Every Weekday（平日の毎日）
 - Monthly（毎月）
 - Custom（カスタム）

7. Next（次へ） ボタンをクリックします。

プレビューウィンドウが表示されます。



8. スナップショット設定を編集します。

- ReadyNAS OS 6 では、スナップショットを有効または無効にできます。スナップショットを有効にすると、ジョブ実行時にスナップショットを保存します。ジョブが完了するとスナップショットは削除されます。

- RAIDiator 4.2 では、ジョブ実行時に確保するスナップショットの容量を設定できません。スナップショットサイズはデフォルトで 10GB に設定されています。ジョブが完了するとスナップショットは削除されます。

9. Limit revisions（バージョン制限）設定を編集します。

バックアップ中のすべてのバージョンのファイルを保存するか、保持するバージョンの番号を指定することができます。Limit revisions の欄はデフォルトで unlimited（無制限）に設定されています。

10. (オプション) **Compression（圧縮）** チェックボックスの選択を解除します。圧縮はデフォルトで有効になっています。

同一 LAN 上でジョブを実行する場合は、圧縮を無効にします。これは、圧縮すると転送スピードが遅くなるためです。

WAN 上での複製ジョブの場合、リンクスピードを確保するために圧縮を有効にします。WAN 上のジョブをスケジューリングする場合、次のジョブが開始される前にジョブを完了させる必要があります。

11. **Apply（適用）** ボタンをクリックします。

変更が保存され、このジョブがスケジュール済みのジョブ一覧に追加されます。スケジュール済みのジョブは **Views（表示） > Jobs（ジョブ）** から参照できます。



システムの複製

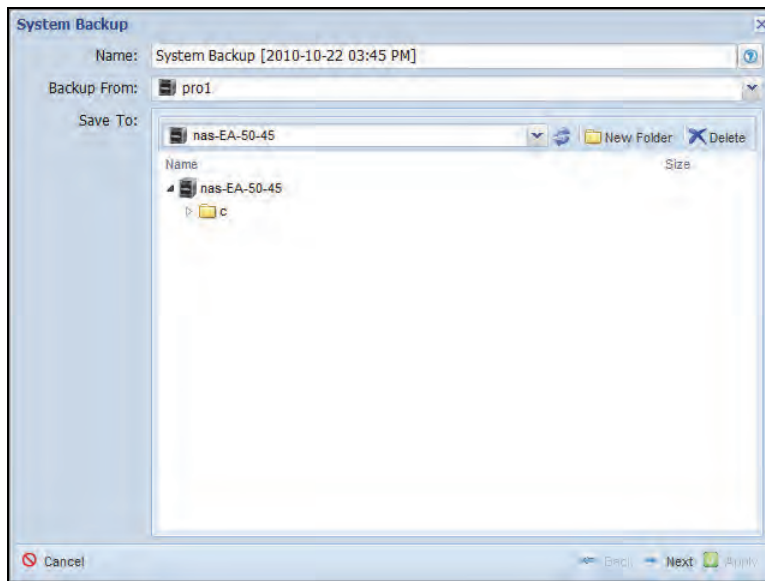
ReadyNAS Replicate では、システム全体を複製できます。手順は、フォルダーを複製する場合とほぼ同じです。

ReadyNAS Replicate は、同様のファームウェアを実行している ReadyNAS ストレージシステム間でのみ、システムレベルのデータ複製をサポートします。例えば、ReadyNAS OS6 ファームウェアを実行している 2 台の ReadyNAS 間であれば、データを複製できますが、一方が ReadyNAS OS 6 でもう一方が RAIDiator 5.3 ファームウェアを実行している場合、この 2 台の ReadyNAS 間でデータを複製することはできません。

対応するシステムと、そこで実行されるファームウェアの一覧については、6 ページの [ReadyNAS Replicate のセットアップ](#) をご覧ください。

➤ データのバックアップと複製：

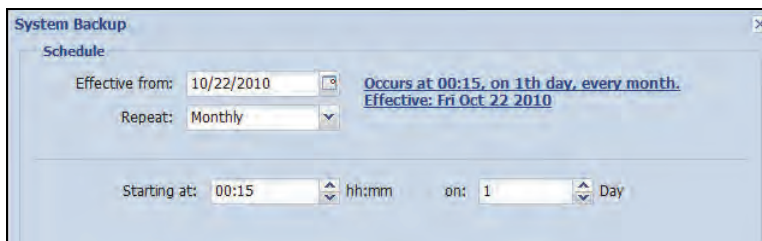
1. Tools (ツール) > Backup System (データのバックアップ) を選択します。



2. Name (名前) 欄にジョブの名前を入力します。
3. Backup From (バックアップ元) ドロップダウンリストで、バックアップしたい ReadyNAS とフォルダーの名前を選択します。
4. Save To (バックアップ先) ドロップダウンリストから、データの複製先を選択します。

ヒント： New Folder (新規フォルダー) ボタンをクリックして、ソースまたはコピー先の ReadyNAS に新しいフォルダーを作成することができます。

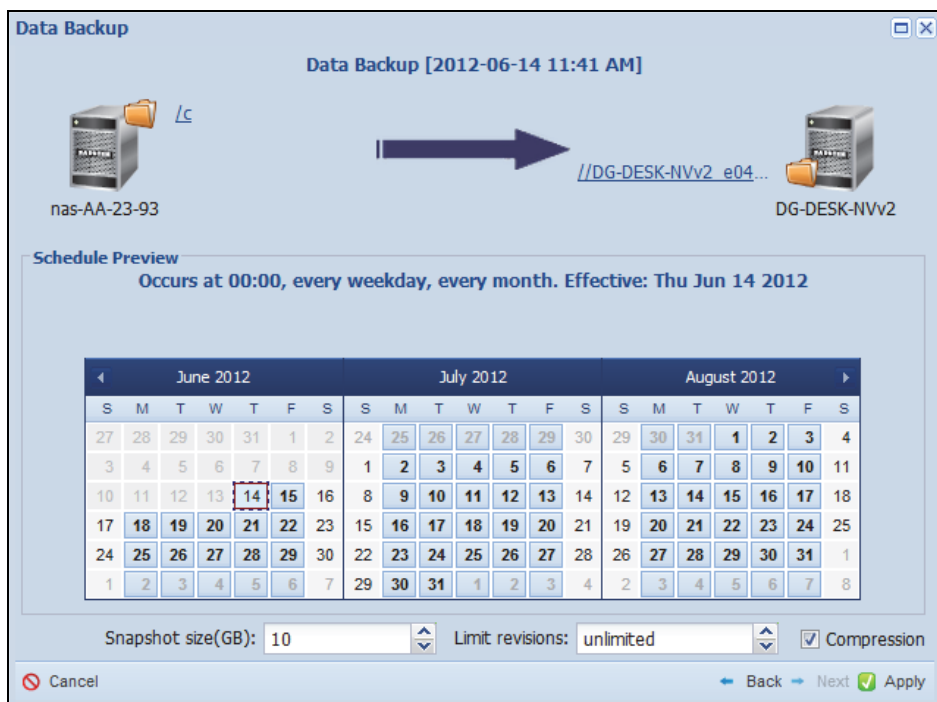
5. Next (次へ) ボタンをクリックします。
6. ジョブのスケジュールを設定します。



- a. Effective from (開始日) 欄で、ジョブを開始したい日付を指定します。
- b. Repeat (繰り返し) ドロップダウンリストから次のいずれかを選択します。
 - Hourly (毎時)
 - Daily (毎日)
 - Every Weekday (平日の毎日)
 - Monthly (毎月)
 - Custom (カスタム)

7. **Next (次へ)** ボタンをクリックします。

プレビューウィンドウが表示されます。



8. スナップショット設定を編集します。

- ReadyNAS OS 6 では、スナップショットを有効または無効にできます。スナップショットを有効にすると、ジョブ実行時にスナップショットを保存します。ジョブが完了するとスナップショットは削除されます。
- RAIDiator 4.2 では、ジョブ実行時に確保するスナップショットの容量を設定できます。スナップショットサイズはデフォルトで 10GB に設定されています。ジョブが完了するとスナップショットは削除されます。

9. Limit revisions (バージョン制限) 設定を編集します。

バックアップ中のすべてのバージョンのファイルを保存するか、保持するバージョンの番号を指定することができます。Limit revisions の欄はデフォルトで unlimited (無制限) に設定されています。

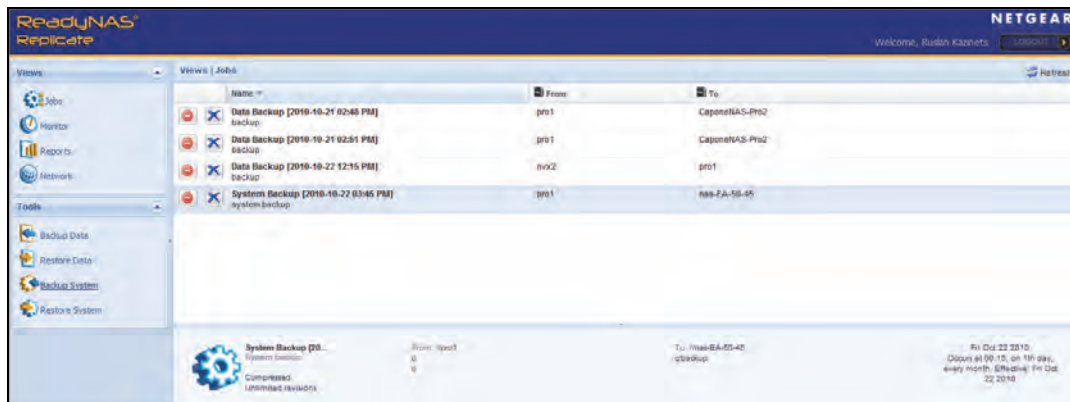
10. (オプション) **Compression (圧縮)** チェックボックスの選択を解除します。圧縮はデフォルトで有効になっています。

同一 LAN 上でジョブを実行する場合は、圧縮を無効にします。これは、圧縮すると転送スピードが遅くなるためです。

WAN 上での複製ジョブの場合、リンクスピードを確保するために圧縮を有効にします。WAN 上のジョブをスケジューリングする場合、次のジョブが開始される前にジョブを完了する必要があります。

11. **Apply (適用)** ボタンをクリックします。

変更が保存され、このジョブがスケジュール済みのジョブ一覧に追加されます。スケジュール済みのジョブは **Views (表示) > Jobs (ジョブ)** から参照できます。



復元

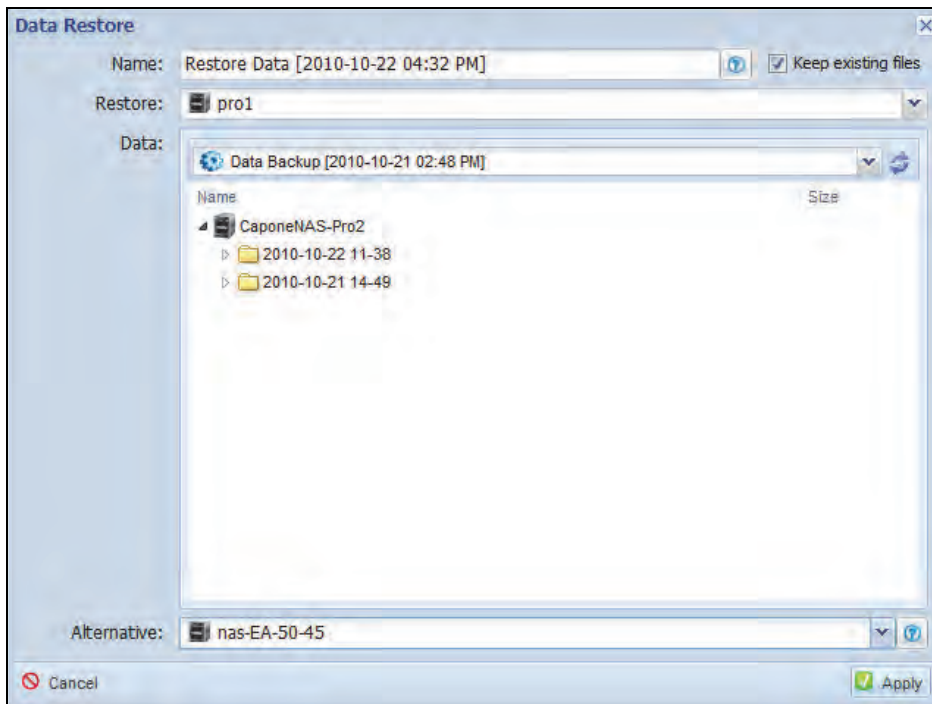
ReadyNAS Replicate は 1 台の ReadyNAS から別の ReadyNAS へデータの復元が簡単にできます。

データの復元

ReadyNAS Replicate を使って個々のフォルダーのデータを 1 台の ReadyNAS から別の ReadyNAS へ復元できます。

➤ **データの復元：**

1. **Tools (ツール) > Restore Data (データの復元)** を選択します。



2. Restore (復元) ドロップダウンリストから、復元するデータが含まれる ReadyNAS を選択します。
3. Data (データ) ドロップダウンリストから、復元するジョブを選択します。

ヒント： Alternative (その他の候補) ドロップダウンリストから別の ReadyNAS を選択することができます。

4. **Apply (適用)** ボタンをクリックします。
データが復元されます。

システムの復元

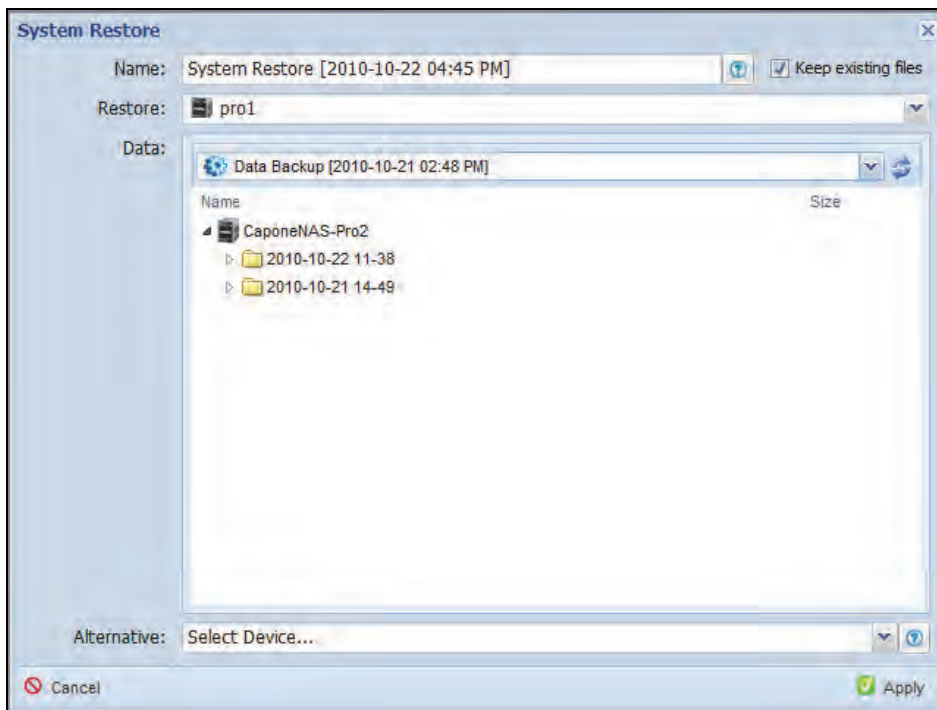
ReadyNAS Replicate を使って ReadyNAS を丸ごと復元することができます。

ReadyNAS Replicate は、同様のファームウェアを実行している ReadyNAS ストレージシステム間でのみ、システムレベルのデータ複製をサポートします。例えば、ReadyNAS OS6 ファームウェアを実行している 2 台の ReadyNAS 間であれば、データを複製できますが、一方が ReadyNAS OS 6 でもう一方が RAIDiator 5.3 ファームウェアを実行している場合、この 2 台の ReadyNAS 間でデータを複製することはできません。

対応するシステムと、そこで実行されるファームウェアの一覧については、6 ページの [ReadyNAS Replicate のセットアップ](#) をご覧ください。

➤ データの復元 :

1. Tools (ツール) > Restore System (システムの復元) を選択します。



2. Restore (復元) ドロップダウンリストから、復元するデータが含まれる ReadyNAS を選択します。
3. Data (データ) ドロップダウンリストから、復元するバックアップジョブを選択します。

ヒント : Alternative (その他の候補) ドロップダウンリストから別の ReadyNAS を選択することもできます。

4. **Apply (適用)** ボタンをクリックします。
システムデータが復元されます。

複製ジョブの管理

3

この章では次の内容について説明します。

- ネットワークのモニタリング
- ジョブの表示と管理
- ジョブのモニタリング
- ジョブレポートの表示

ネットワークのモニタリング

ReadyNAS Replicate のホームウインドウでは、ネットワークに登録された ReadyNAS とそれぞれのステータスが一覧表示されます。

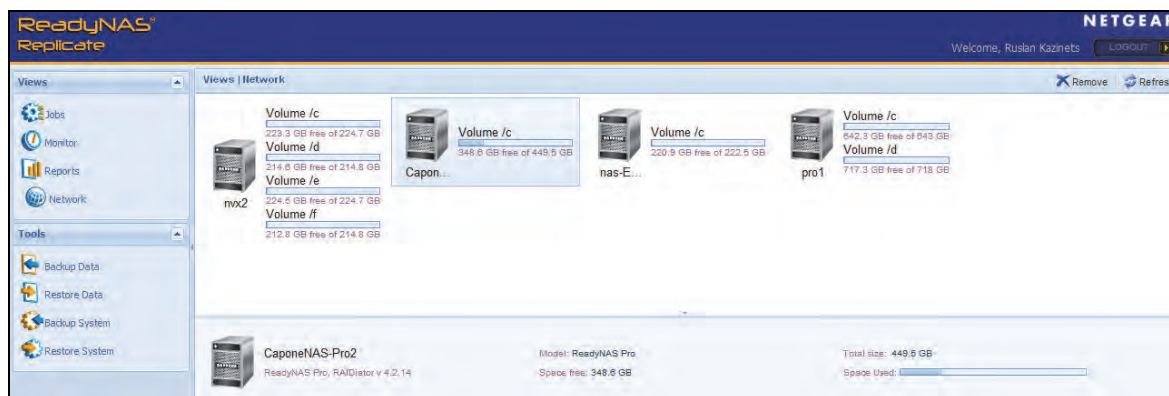


図 2. ReadyNAS Replicate のホーム画面

上のパネルには次の情報が表示されます。

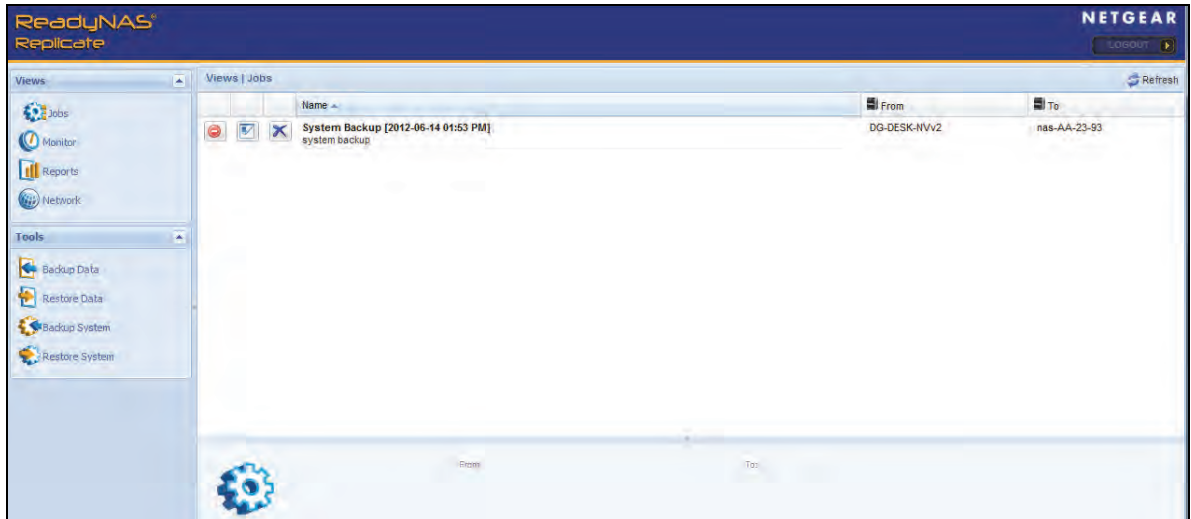
- ReadyNAS 名
- ReadyNAS の各ボリューム
- ReadyNAS の各ボリュームの合計サイズ
- 各ボリュームで使用されている領域のサイズ

下のパネルには次の情報が表示されます。

- ReadyNAS 名
- ファームウェアのバージョン
- ReadyNAS のモデル名
- ReadyNAS の空き領域
- ReadyNAS のすべてのボリュームの合計サイズ
- ReadyNAS のすべてのボリュームで使用されている領域の合計

ジョブの表示と管理

[Jobs (ジョブ)] ビューからジョブを簡単に追加、削除、編集できます。



ジョブを作成すると、Jobs 画面に表示されます。ReadyNASReplicate は設定したスケジュールに基づいてジョブを実行します。

➤ ジョブの表示および管理：

1. Views (表示) > Jobs (ジョブ) を選択します。

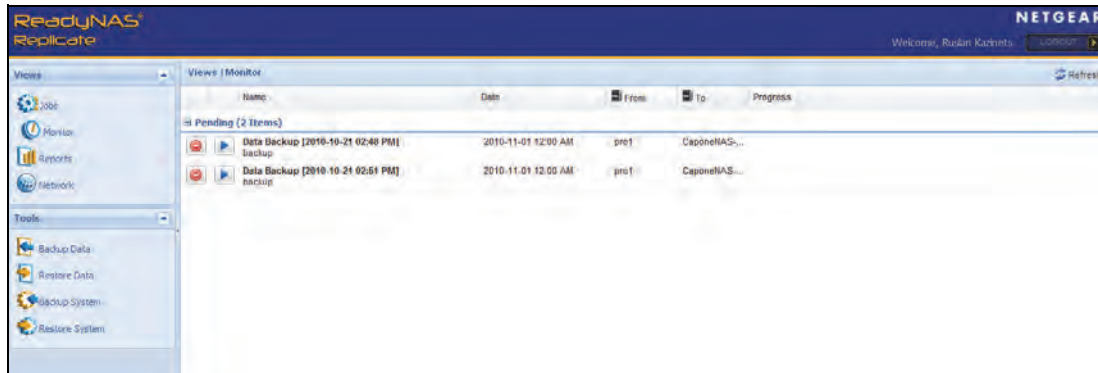
ジョブの一覧が表示されます。

2. (オプション) 各ジョブの横にあるアイコンを使って、次のようにジョブを管理します。

ボタン	説明
有効 / 無効ボタン 	• Disable (無効) ボタンをクリックして有効にしたジョブを無効にします。 • Enable (有効) ボタンをクリックして無効にしたジョブを有効にします。
編集ボタン 	Edit (編集) ボタンをクリックしてジョブを編集します。
削除ボタン 	Delete (削除) ボタンをクリックしてジョブを削除します。

ジョブのモニタリング

「Monitor（モニタリング）」画面では、保留中またはアクティブな復元ジョブのステータスを表示できます。



アクティブなジョブは現在実行中のジョブです。保留中のジョブとはスケジュール済みジョブとして次に実行されるジョブのことです。必要であれば、「Monitor（モニタリング）」ビューからジョブをすぐに実行できます。

➤ ジョブのモニタリング：

1. **Views（表示） > Monitor（モニタリング）** をクリックします。

アクティブおよび保留中のジョブの一覧が表示されます。アクティブなジョブは現在実行中のジョブで、保留中のジョブとはスケジュール済みジョブとして次に実行されるジョブです。

2. （オプション）各ジョブの横にあるアイコンを使って、次のようにジョブを管理します。

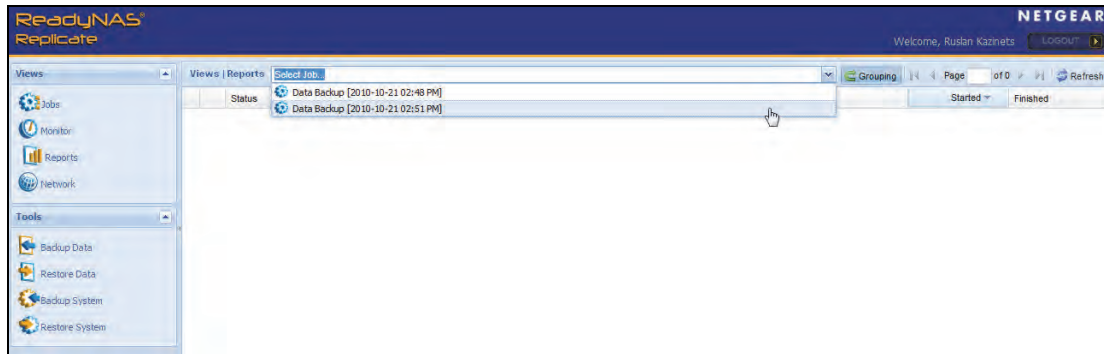
ボタン	説明
有効 / 無効ボタン 	• Disable（無効） ボタンをクリックしてスケジュール済みとして次に実行されるジョブをスキップします。 • Enable（有効） ボタンをクリックしてスキップしたジョブを有効な状態に戻します。
実行ボタン 	Run（実行） ボタンをクリックして今すぐジョブを実行します。

ジョブレポートの表示

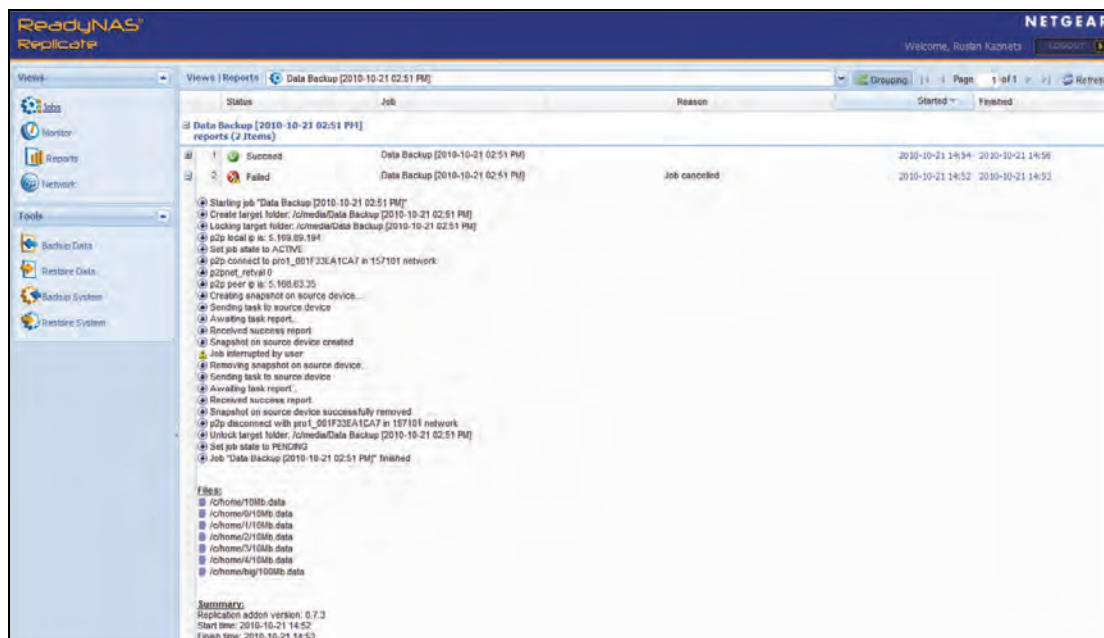
ReadyNAS Replicate は、スケジュール済みジョブの結果を示すレポートを生成します。

➤ ジョブレポートを表示する：

1. Views（表示）> Reports（レポート）を選択します。
2. ドロップダウンリストからジョブを選択します。



詳細な進捗レポートが自動的に表示されます。



3. [+] アイコンをクリックしてジョブの詳細を確認します。

ジョブが失敗すると、生成されたレポートに問題が発生した箇所が表示されます。